

# 青研かわらばん

発行所 長岡鉄工業青年研究会

発行責任者 久保雅宏

編集責任者 佐藤康一

編集者 難波博繁

久保誠朗・小林史幸・永井宏明

古川高志・宮下玲子・松崎孝彦

矢尾坂隆・山村誠

事務局

新潟県長岡市坂之上町2丁目1番1号

長岡商工会議所ビル5F

長岡鉄工業協同組合内

長岡鉄工業青年研究会

TEL 0258-36-6982

印刷所

(株)北都 三条市田島2丁目23番3号

## 新年度をむかえて

長岡鉄工業青年研究会  
平成二十四年度会長

小西 統之



平成二十四年度、長岡鉄工業青年研究会会長を務めさせて頂くことになりました、株式会社 小西鍍金の小西統之です。

一年間よろしくお願い致します。

昨年は当会発足四十周年ということで「大同窓会」と銘をうち、歴代卒業生、関係諸機関の方々をお招きし、盛大な周年事業をさせていただきました。これまで、当会が継続してきましたのは、諸先輩方皆様のご尽力と、関係諸機関のご支援、そして会員皆様方一人一人のご協力の賜物であると深く感謝しております。

今年度の会長の使命としては、各事業を成功に導くことであると考えております。そのためには会長が事業の方針を定め、会員が動きやすい状況を作ることが重要であると思っております。会員の皆様方におかれましては、当会の目的である「会員の相互扶助の精神に基づき、相互間の親睦、情報交換、技術の向上等会員のために必要な共同研究を行ない、長岡鉄工業の発展に寄与すること」を念頭に置いた上で、会員間の親睦を深め、お互いに切磋琢磨し合える場になるように精進していきたいと思っております。

そうすることで長岡という町にもものづくりで貢献していく、という運営方針で、本年度も精一杯頑張っていく所存であります。さて、現在われわれを取り巻く状況といたしましては、四年前のリーマンショック

以降、我々ものづくり企業を取り巻く環境は一段と厳しい状況にあります。記録的な円高による輸出産業の減収。またそれに伴う国内企業の生産拠点の海外移転。EU域内を震源とする金融不安、それに伴う欧米の景気の落ち込み。韓国の輸出増大に伴う日本製品のシェア減少。今まで好調であった中国の成長の鈍化などの不安要因が多数ある状況で我々長岡にある企業が長岡の雇用を守り、これからも成長を続けていくためには何をすればよいのか、この激動の時代を乗り切るために必要な知識を共有し、ともに支える存在が青研であると考えております。会員の皆様におかれましては、皆が主役であると思ひ青研活動を行っていただければと思います。

今年度は、ものづくりの楽しさを知ってもらうための工作教室、将来くる好景気のために、何が必要なのかを知るための研修事業の二本柱を中心に、地域貢献、経営者に必要な知識を深めていこうと考えております。

### 一、ものづくり事業

今後の長岡を支えるのは我々であり、子供たちであります。長岡の歴史はものづくりの歴史であります。長岡東山油田の部品加工から始まり、今では装置産業に供する部品生産などを行っています。そのような長岡の歴史を子供たちに知ってもらうため、物を作ることは素晴らしいこと、物を知ってもらえるような事業を行いたいと思ひます。

今年度は長岡に新しいランドマークである「アオーレ長岡」がオープンする年でもあります。その記念すべき年に我々ができることは何かを考えていくと、子供たちにものづくりの楽しさを知ってもら

える事業として近年行っている、ものづくり体験教室を全体事業として行い、子供たちにもものづくりの楽しさを伝えられたいと思ひます。

そのほかにも、地域内の研究機関、支援機関などと連携をして技術の向上や鉄工青研のアピールを図っていきます

### 二、不況対策事業

研修事業は当会の主な事業の一つです。今年度は今後の企業経営を続けていくために必要なことは何であるかを共に学びます。会員の多くは現場での作業をしている方が多いと思ひます。しかしいづれは会社経営を担っていく方でもあります。若いときに蓄えた知識は今後の経営を考えるとときに役に立つものだと考えております。

不況時であっても高収益を上げている企業の仕組みを学び、自社に取り入れることができれば今後の企業の発展、継続につながるものと思ひます。

### 三、地域貢献・交流事業

地域貢献事業として諸先輩方並びに、会員企業の御協力のもと行われる「くず鉄集め」を本年も実施致します。八月一日には長岡まつり前夜祭では青研オリジナル神輿、纏で神輿渡御を盛り上げ、地域の方々へ鉄工青研をアピール致します。

また、他団体交流事業の継続として柏崎、小千谷の各若手の団体と本年も交流を深め、共に情報交換、技術向上に努めていきます。

一年間、以上の事業を柱に当会の運営を行います。これから我々青研メンバーの減少が見込まれます。会員獲得への積極的なご協力をお願い致します。一年間御協力宜しくお願い致します。

# 一年を振り返って

長岡鉄工業青年研究会  
平成二十三年年度会長

久保雅宏



鉄工青研発足四十周年が終わった...

その重責から解放されホッとした気持ちと、皆さんと築いてきた「四十周年YEAAR」が終わってしまった。もう寂しさが入り交ざっているのが今の私の素直な気持ちです。「四十周年の一年を成功させたい」その強い思いで、平成二十二年度は川口会長のもと準備を進め、そして迎えた平成二十三年度は役員・会員、皆さんの力をお借りして、全力で駆け抜け無事ゴールする事が出来ました。本当に有難うございました。改めて一年を振り返ってみますと、各委員会の各事業はどれも大成功だったと実感しております。特に「四十周年〇〇」と銘打った事業はご参加頂いた諸先輩方より温かい言葉や、激励をたくさん頂きました。これも準備に携わった皆さんの努力の賜物だと深く感謝致します。そして会員各々が、自分の力で成し得た事だと自信を持って次年度以降も活躍される事を期待します。十一月十一日の記念式典では、来賓・先輩・現役合わせ百四十一名もの方々にお集まり頂き盛大に執り行う事が出来た。私にとって、生涯忘れる事の出来ない一日となりました。事業としての成功も嬉しいのですが、皆さんと一致団結し、一つの目標を成し遂げたということがなによりだと思います。

四十五周年・五十周年に向け、また新しい青研がスタートします。未来の青研を作るのは会員一人一人の力です。私も気持ちを切り替え全力で小西会長をサポートします。平成二十四年度の小西会長・役員の皆様へバトンを渡す事と、一年間見守る事が私にとっての最後の仕事だと思います。

また皆さんと新年度青研を盛り上げていきたいと思っております。当然「青研LOVE」の気持ちを忘れずに。最後に一年間私を支えてくださいました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。本当に有難うございました。

## 委員会事業報告

### 総務委員会

委員長 佐藤 康一

今年度の総務委員会では、四月の卒業式、七月の納涼会、十二月の忘年会、二月の臨時総会・新年会、定期総会という例年の事業に加え四十周年記念式典ととり行いました。

各事業それぞれ、大変大勢の会員の方から参加していただき誠にありがとうございました。

毎月の役員会、委員会の設営、進行をスムーズにとり行うことを心がけてまいりました。だいたい時間通りに進めることができ、会員の皆様に待たせることがあまりなかったかと思えます。

初めての委員長ということで、不慣れな点が多々あり、総務委員の皆様には苦勞を掛けたくもありませんが、ご協力のおかげで無事一年間活動を行うことができました。

一年間、本当にありがとうございました。

### 卒業式

平成二十三年四月九日に、かも川別館にて第三十九回卒業式が厳かに行われました。卒業式では、卒業生から自分にとっての青研とはどういうものだったのか、現会員に対して温かい激励も含め、心に残るお言



葉を頂き、改めて鉄工青研の良さを認識することができました。

懇親会では、卒業生との思い出話に花が咲き、大変盛り上がる事ができました。恒例の胴上げを、この度は懇親会場内にて行いましたが、会員全員感謝の気持ちを持ち、卒業生を送り出す事ができたのではないかと思います。我々は今後、鉄工青研の「良さ」、「らしさ」を引き継ぎ、さらに成長した鉄工青研であるよう、会員一致団結し頑張っていきたいと思

います。

参加者 六十名 (難波 博繁)

### 納涼会

七月二十三日には魚魚や本店にて納涼会を行いました。暑さの厳しい中、多数の会員の皆様に参加いただきありがとうございました。

四十周年事業に向けて、会員の親睦と一致団結を図ることができ、楽しく、有意義な納涼会となりました。

国内では、円高やデフレなどの影響もあり、経済不況が続いておりますが、この閉塞感を吹き飛ばせるような楽しい雰囲気、納涼会が、来年もまた開催されることを願っています。

参加者 二十八名 (松崎 孝彦)

### 忘年会

十二月三日に、いさり火にて忘年会を行いました。昨年より多少人数は減りましたが多数の方に出席して頂きました。大変盛り上がり、仕事での疲れを忘れる事が出来ました。

来年もまた、このような忘年会が行われる事を願っております。

参加者 三十七名 (宮下 玲子)

### 臨時総会・新年会

平成二十四年二月三日長岡グランドホテルにて臨時総会・新年会を開催しました。臨時総会では次年度会長、副会長および各役員の選出が行われ無事承認され

ました。今回はくず鉄基金の使い道についての議論も活発に行われ有意義な総会となりました。新年会では中越鉄物青年研究会と合同で開催し、多くの来賓、歴代会長にも参加頂きました。鉄工、鉄物両青研の若さとパワーで大変盛り上がった新年会となりました。

参加者 八十一名(来賓：鉄物青研含む) (矢尾板 隆)



## 研修委員会

委員長 佐藤 大樹

●第四十回定期総会  
平成二十四年四月七日 かも川別館にて行います。

本年度研修委員会は「自己成長と青研の絆を深めること」を基本方針とし三つの事業を行いました。

八月に四十周年記念事業第一段として落語家、三遊亭白鳥師匠をお招きし、「笑いの中に元気あり、発想転換でピンチを乗り越えろ！」という演題の下、長岡鉄工業協同組合会員様、青研OBの皆様をあわせ総勢六十三名の方からご出席頂き、記念講演会を開催致しました。長引く不況や三月の大震災等、どうしても暗く沈みがちなムードが漂う中ででしたが、ご講演により、元氣や明日への活力が沸いてきたのではないかと思います。また、師匠の落語家人生をお伺いし「差異性」の重要性を改めて痛感致しました。資本主義経済の利益の源泉である差異性は、浮き沈みの激しい芸能の世界はもちろん、製造業に携わる我々にとっても、今後の経営活動において大きな課題であると感じられました。



九月に研修旅行とし、住友製鉄鹿島製鉄所様、陸上自衛隊土浦駐屯地様を見学致しました。鹿島製鉄所様では暑さと迫力に圧倒されながらも質疑応答では皆様からの質問が絶えず、大幅に予定時刻を過ぎ、その後の日程に支障をきたしご迷惑をお掛け致しました。土浦駐屯地様では貴重な資料を拝見させて頂くとともに、山本五十六元帥の先見性、実行力等々、現代社会を生きる我々にも大きな指針となるものでした。また、特攻隊とし戦場へ向かう若者たちの残した数多くの手紙を拝見し、戦争や生と死について大いに考えさせられました。ご尽力頂きました廣井先輩にはこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

一月には若手研究者交流会第二部の懇親会を担当させて頂きました。長岡技術科学大学の研究者の方々、柏崎青年工業クラブ様、小千谷鉄工電子協同組合木曜会様とともに、膝と膝を突き合わせ、未来について大いに語り合うことができました。

四十周年Y.E.A.R.に委員長をさせて頂き、楽しく充実した一年を過ごさせて頂きました。久保会長をはじめ、研修委員、各事業にご参加、ご協力頂いた会員皆様方のおかげと感謝しております。大変ありがとうございました。

### ●「講演会」

四十周年記念事業の一事業として執り行われました、四十周年記念講演会は鉄工組合会員様、OB会員様をお招きし現青研会員参加者と合わせまして、六十三名の大勢の方々よりご参加を賜り滞りなく無事終了する事が出来ました。

ご講演頂いた三遊亭白鳥師匠「笑いの中に元氣あり 発想転換でピンチを乗り越えろー」は御参加頂いた皆様から御賞賛頂くとてもユニークな内容で、参加者の方に落語を教える場面などあ



り大変盛り上がる講演会となりました。懇親会では日頃からお世話になっております鉄工組合会員様、OB会員様とより一層の交流が深まる事が出来ました。ご参加頂きました皆様に心より御礼申し上げます。誠に有り難う御座いました。

研修委員会 四十周年記念講演会

(皆川 政男)

### ●「研修旅行」

四十周年という節目を迎え、改めて自分たちの生業に関係する金属の精製及び、長岡の偉人である「山本五十六元帥」から「常在戦場」という長岡魂を学ぼうと研修旅行を計画いたしました。



出発からバス内講習を実施し、見学するポイントに参加者全員で確認しました。ある程度勉強した段階で見学すること、見学地での吸収力や意識の持ち方が変わってくる事が分かりました。

見学中に、自分を感じたものをお互いに語り合っている姿を拝見しまして、とても嬉しくなりました。

この度、(株)広井工機の廣井先輩におかれましては、大変なるご助力を頂きまして本当にありがとうございます。陸上自衛隊土浦駐屯地での見学の幅が格段に広まり、日本の先輩方がどのような気持ちで戦争へ行ったか、未来を託された我々に何ができるかを大いに考えさせられました。

平日を含めた行程でご多忙なところ、二十一名の方々に参加して頂いたこと、心より感謝申し上げます。

研修委員会 研修旅行

(大宮 丈範)

## 実行委員会

委員長 毛利 聡一

久保会長より、「次年度の実行委員長をお願いしたい。」と言われ、「前年度実行副委員長をやっているし、まあなんとかなるだろう。」と思いき、ちよつと気軽に(ホントはそんな事ありませんが)委員長の任を引き受けました。

初期の委員会の進め方は、自分で構想と割り当てを考え無駄に集まることをせず毎月委員会が集まった時、打合せをして事業を進めていく考えでした。しかし実際はそう簡単では無く、「全然時間が足りない」「問題点が次々出てくる」と、まとまらず苦労していました。そんな時、久保会長や安藤担当副会長から「委員全員で集まって相談したらどうだ。」というアドバイスでした。委員に召集をかけると皆忙しい中、早く集まってもらい、事業成功のためのアイデア、アドバイスなどが次々と出て、一人で考えていた時よりも格段に話が進みました。その時、「集まることは無駄ではない」ということを思い知らされました。その後は、何度も事業推進ために集まり、全部の事業を完結いたしました。委員の皆様有難う御座いました。

リフレッシュ事業での初の音楽イベント「青研音楽祭二〇一二」(題案 中條を行うにあたり、外注で小林史幸君(アルトサックス)・永井邦幸君(ベースギター)のユキユキコンビに発注して、その知り合いから「Rey's Jazz Band」を紹介してもらいました。その時もまだどうなるか不安でした。しかし、バンドメンバーとユキユキコンビ・小林宏君(ドラム)とカラオケ屋の招き猫で音合わせをして、初セッションを聴いた時にはそんな考えは吹き飛びました。「これはいいける!」と思ったのは今でも覚えています。前述、音楽イベントでは、鑄物青研も打合せから参加して頂き、参加各委員にも「歌やパフォーマンスは自分たちで考えて

かんばつて」とオニ発注したにも関わらず当日は素晴らしいパフォーマンスをして頂き、四十周年記念ゴルフコンペにおいても「何か手伝うことないか?」「自分の席の先輩の案内はまかせてよ」など、自主的なサポートしてくれる会員が非常に多く、「青研はやはり、立場のある人間の集まりだな」と改めて感じました。

自分の中では「まあ何とかあったかな」と思う一年でした。しかし、その「何とかあった」を実現して頂いたのは、大竹副委員長・実行委員はじめ全会員のおかげです。改めてまして本当に皆様有難う御座いました。

### ●卒業生追い出しコンペ

四月二十三日(土)柏崎カントリークラブにて卒業生追い出しコンペを行いました。

今回は、コンペ二名・表彰式より参加二名の計四名の卒業生に参加していただきました。



当日は悪天候も予想された中での開催となりましたが大崩することもなく、参加者全員で盛り上がる事ができました。卒業生の方々を盛大に送り出す事が出来たと思います。

参加者 ゴルフ 二十名

表彰式 二十八名

優勝者 川口 秀和

(小笠原昭範)

### ●リフレッシュ音楽イベント

平成二十三年七月九日(土)煉瓦亭五階ハッピーファイブにてリフレッシュ音楽イベントを中越鑄物青年研究会様にも参加いただき両青研合わせて二十八名で開催しました。

今回は「青研音楽祭二〇一二」ということで、第一部は長岡のアマチュアJAZZバンドの生演奏を鑑賞し、第二部はチーム対抗のカラオケ大会を行いました。





普段はあまり見る機会のない生バンド演奏を間近で見えて『生』の素晴らしさを実感し、カラオケ大会ではチーム対抗ということもありさらに白熱しとても盛り上がりしました。

日頃のストレスを大声で発することで解消でき、心身ともにリフレッシュできたのではないかと思います。

また中越鉄物青年研究会の方々とより一層親睦を深められたと思います。

参加者 中越鉄物青年研究会 六名

長岡鉄工業青年研究会

二十二名

バンドメンバー

(小林 宏、中條 秀樹)

## ● 屑鉄集め

今年度も、九月二日に、青研参加者二十七名、屑鉄提供協力企業三十社にて行いました。未曾有の震災復興途上、かつ、未だ不況の最中にも拘らず、六七四、六八七円を集めることができました。これもひとえに、屑鉄集めに対するご理解・ご協力を賜った協力企業及び、回収作業を行っていただいた青研会員の皆様のおかげです。

事前検討・準備・当日の作業・班編成に関しては、まず、OBへのFAX送信は、最新の名簿をもとに行い、不手際は最小限に抑えられたと思います。OBの所在は流動的ですので、毎年、情報を更新し続けていくことの重要さが分かりました。

当日は、限られた時間の中での輸送能力を問われる南部エリアは、午前よりフライング実施をした結果、ゆとりのある時刻に作業を終了出来ましたが、一部の方に時間的・肉体的苦痛が集中してしまい、その点は改善の余地ありかと思えます。

また、三班・六班の皆様には、担当企業様と(株)横山銅鉄店様との間を何度もピストン輸送して頂き、最後に(株)北陸製

作所様の回収に合流して頂き、効率良い作業を行って頂きました。

トラック台数は、例年になく、多くの会員の皆様より出して頂き、誠にありがとうございました。

市外より、定時に集合頂いた皆様も、時間的制約の中、誠にありがとうございました。

十二月に各福祉施設へ訪問、プレゼント贈呈

を行い、今年度も大変喜んで頂き、此方も元気をもらいました。次年度も引き続き屑鉄集めを行いたいと思いますので宜しくお願い致します。

(真島 洋紀)

## ● 四十周年記念ゴルフコンペ

四十周年という節目を迎え、平成二十三年十月十五日に例年より大規模なゴルフコンペを、長岡カントリ倶楽部にて開催致しました。来賓として、長岡鉄工組合理事長、柏崎青年工業クラブ様四名、小千谷鉄工電子協同組合木曜会様三名、中越鉄物青年研究会会長、横山銅鉄様一名、計十名と、鉄工青研OB二十八名、現役会員十九名、合計五十七名にて楽しくプレーして頂けたと思っております。

懇親会には、現役会員五名が加わり、六十二名にて親睦を深めることができました。



優勝された、柏崎青年工業クラブの藤巻健様に、優勝商品のテレビをお届けいたしました。柏崎青年工業クラブの事務局に寄付されるそうです。

あいにくの天気の中、参加、協力された方々に、深く感謝致します。

優勝者 藤巻 健

(柏崎青年工業クラブ)

四十周年記念ゴルフコンペ担当

(萩野 秀樹、猪爪 眞貴)

## お祭り委員会

委員長 多田 雅彦

平成二十三年八月一日(月)、恒例の長岡まつり前夜祭・神輿渡御に参加いたしました。十八回目となる本年は、飛び込み参加の方を含めると総勢百余名での参加となりました。



今年度は鉄工青研発足四十周年記念ということで、記念木札を製作いたしました。鉄工青研らしくステンレスで製作し、神輿参加者のみなさんに身に付けていただきました。また、纏演舞も今年で五年目となり、練習の成果も相成って、技にますます磨きがかかり、おおいに鉄工青研の名をそして発足四十周年を広くアピールすることができたと思っております。

ここ数年、若くない参加人数での神輿渡御となったことに加え、折からの猛暑も重なり、担ぎ手の皆さんにはたいへん負担の多い状況となっていました。それにもかかわらず大きなトラブルもなく無事終了できましたのは、会長をはじめとする三役の皆様や各委員会の参加者・OBの皆様など、神輿渡御にご参加・ご助力くだ



さいましたすべての方々のおかげと心より感謝いたしております。

また、OBおよび関係各所の皆様より、例年と変わらぬご支援いただきましたこと、また神輿渡御当日にお心遣い・お声掛け頂きましたことこの場をお借りいたしまして、お礼申しあげます。ありがとうございました。

参加者 九十四名

## ものづくり委員会

委員長 山口 良和

今年度のものづくり委員会では四つの事業を行いました。二回開催致しました長岡技術科学大学の先生方を迎え、最先端の研究発表と意見交換会を行ない、さらに一歩踏みだしその後の加工見積り、注文の取引ができる関係が築けた「交流会」、長岡鉄工業の未来を見据えた後継者育成と子供達へのものづくりの素晴らしさを伝えるための「四十周年記念装置製作 做い旋盤・做い彫刻機」今回で六年続けて行なう「体験教室」を行ないました。各事業におきまして、日程的にきついスケジュールにも関わらず、大勢の皆様方に御協力頂きました。また、做い旋盤・做い彫刻機は前年度から構想を練り、会長・副会長・四十周年プロジェクトチーム・青研会員皆様の経験と知恵と技術をお借りして満足いく四十周年記念装置「青研らしく子供達へものづくりの素晴らしさを伝える記念装置」が完成致しました。本当に御協力有難うございました。

これからの鉄工青研で培った経験を生かし取り組んでいきたいと思えます。

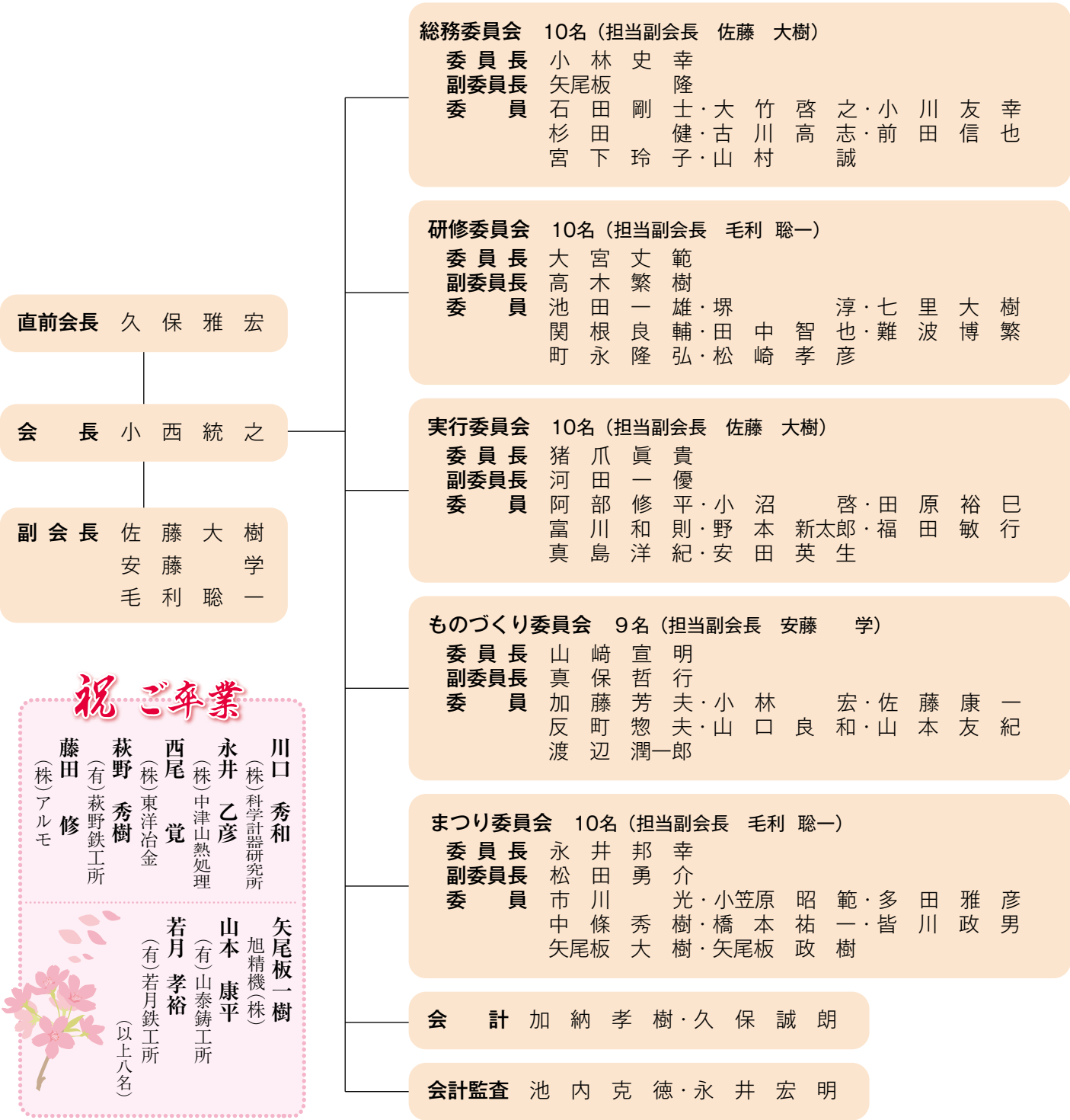
会長・副会長・ものづくり委員皆様有難うございました。





合計 百四十一名

平成24年度 長岡鉄工業青年研究会組織図



祝ご卒業

川口 秀和  
(株)科学計器研究所

永井 乙彦  
(株)中津山熱処理

西尾 覚  
(株)東洋冶金

萩野 秀樹  
(有)萩野鉄工所

藤田 修  
(株)アルモ

矢尾板 一樹  
(株)旭精機

山本 康平  
(有)山泰鑄工所

若月 孝裕  
(有)若月鉄工所  
(以上八名)



新入会員の紹介

平成23年度入会  
池田 雄一  
(株)池田機工  
昭和五十八年四月三十日生

市川 光  
(株)オオイ  
昭和五十八年七月二十九日生

七里 大樹  
(株)東蔵王  
昭和五十八年六月三十日生

山本 友紀  
(株)山本製作所  
昭和六十一年十月十二日生

阿部 修平  
(株)阿部商店  
昭和五十九年三月九日生

加藤 芳夫  
(株)ワッド  
昭和五十九年五月四日生

関根 良輔  
(株)共栄機械  
昭和六十三年六月十二日生

田原 裕巳  
(株)田原鉄工所  
昭和六十三年四月五日生

矢尾板 政樹  
(株)旭精機  
昭和四十八年四月三十日生

矢尾板 大樹  
(株)旭精機  
昭和五十二年一月二十一日生

平成24年度入会平成二十四年四月一日現在  
矢尾板 大樹  
(株)旭精機  
昭和五十二年一月二十一日生